

熊本大学英文学会

〒860-8555
熊本黒髪2丁目40番1号
熊本大学文学部
英語英文学研究室内
電話 (096)344-2111(代)
HP http://www.let.kumamoto-u.ac.jp/eng/index.html



第36号 2007. 10. 5

熊大英文学会の新たな歩み
—五十一周年目の歴史に思う—

会長 西川 盛雄



本会は熊本大学英語・英米文学研究室の同窓会として現在約一、六〇〇名の卒業生、修了生、在学生を擁し機関誌『英語英文学』と情報誌『英文学だより』を年一回『同窓会名簿』を四年に一回発行してまいっております。

先生は来年三月に熊本大学を退職になられます。ご退職になられます。ご退職になられます。ご退職になられます。

今年四月に、崇城大学から熊大英文学部にアメリカ文学の講師として参りました永尾悟(ながおさとむ)と申します。

着任のご挨拶

講師 永尾 悟

率のアップ、研究・教育内容のレベルアップ、カリキュラムの充実・発展、他学部・他学科との交流・連携など外部評価の問題と絡んで今日個人的な努力がますます必要となってきております。

▼Open Campusで模擬講義をする永尾先生 7 August 2007



史・文化的遺産に富んでいること。そして、偉大な作家たちの文学的伝統が根付いているという点も同じです。

熊本大学を平成六年に卒業した。観光課庶務係、国民体育大会事務局宿泊輸送課、保健福祉センター母子保健・予防接種係などです。

熊本大学を平成六年に卒業した。観光課庶務係、国民体育大会事務局宿泊輸送課、保健福祉センター母子保健・予防接種係などです。

熊本大学を平成六年に卒業した。観光課庶務係、国民体育大会事務局宿泊輸送課、保健福祉センター母子保健・予防接種係などです。

▲2001年サンアントニオ市役所国際関係部職員とのミーティング(筆者は右)

熊大英文学会の五十年を振り返って

熊本大学名誉教授 吉田 正憲



熊大英文学会五十年の思い出の一端を、卒業生を中心メンバーのひとり今村隆さんが昨年の『英文学だより』第一三五号に書いていますが、法文学部(後に文学部)の講師・助教として長く河原畑・山田・和田先生の身近にいた私は、和田先生の定年退官後、会長職を引き継いで九年間の責任を担ったので、会の運営には今も深い関心がある。

熊大英文学会の歴史は熊大英文学のそれと複雑に重なり合っている。法文学部から教養部が独立して英語英文学の

必要な会費の増額も、異議なく承認された。日本の英文学研究に大きな刺激を与えた熊本大学スベンサー研究会の長期間の翻訳活動も、会員のこういふ厚い友情に支えられて実現したと言ってよい。

熊大英文学会五十年の思い出の一端を、卒業生を中心メンバーのひとり今村隆さんが昨年の『英文学だより』第一三五号に書いていますが、法文学部(後に文学部)の講師・助教として長く河原畑・山田・和田先生の身近にいた私は、和田先生の定年退官後、会長職を引き継いで九年間の責任を担ったので、会の運営には今も深い関心がある。

熊大英文学会の歴史は熊大英文学のそれと複雑に重なり合っている。法文学部から教養部が独立して英語英文学の

熊大英文学会の歴史は熊大英文学のそれと複雑に重なり合っている。法文学部から教養部が独立して英語英文学の

熊大英文学会の歴史は熊大英文学のそれと複雑に重なり合っている。法文学部から教養部が独立して英語英文学の

熊大英文学会の歴史は熊大英文学のそれと複雑に重なり合っている。法文学部から教養部が独立して英語英文学の



▲創立50周年記念大会シンポジウム (アークホテル熊本) 11 Nov 2006

熊大英文学会の歴史は熊大英文学のそれと複雑に重なり合っている。法文学部から教養部が独立して英語英文学の

熊大英文学会の歴史は熊大英文学のそれと複雑に重なり合っている。法文学部から教養部が独立して英語英文学の

熊大英文学会の歴史は熊大英文学のそれと複雑に重なり合っている。法文学部から教養部が独立して英語英文学の

熊大英文学会の歴史は熊大英文学のそれと複雑に重なり合っている。法文学部から教養部が独立して英語英文学の

理想の教師

楠元旧姓・木村 実子 (40回・平4卒/20回・平6修)



▲2004年10月 サンアントニオ市訪問団が熊本市を表敬訪問 (筆者は左端)

熊大英文学会の歴史は熊大英文学のそれと複雑に重なり合っている。法文学部から教養部が独立して英語英文学の

就職活動体験記

四年 本田夕希菜

約半年間の就職活動の末、外資系航空会社から客室乗務員の内定を得ました。

元々は、英語教師になりたいという思いから、生の英語を学ぼうと昨年度カナダへ留学しました。しかし、多くの人々との出会いや様々な経験を通して、英語を活かして世界中の多くの人々と接することができる職業に就きたいと考えるようになり、今年二月の帰国と同時に就職活動を始めました。

ダブルスクールに通い、基本的な立ち振る舞いや面接の指導を受けることも、英語話や中国語話にも足を運びました。

実際、就職活動は想像以上に厳しいもので、なかなか内定を得ることができず、何度も面接を断られてきました。面接は、日本人面接官からの質問には日本語で、外国人面接官からは英語で答えなければならないものでした。それまで失敗してきた会社での面接慣れが功を奏したのか、緊張せずに試験に臨むことができました。

今、振り返ってみると、確かに就職活動は想像以上に厳しいもので、何度も面接を断られてきました。面接は、日本人面接官からの質問には日本語で、外国人面接官からは英語で答えなければならないものでした。それまで失敗してきた会社での面接慣れが功を奏したのか、緊張せずに試験に臨むことができました。

教育実習と教員採用試験を終えて

四年 木村雄一

「英語が好き」という気持ちで英語文学分野の学生であり、あれは当たり前かもしれない。そしてまた、「将来は英語を教える」という気持ちは、おそろしく多くの英文生が抱いている希望かと思えます。英語を生かすことのできる仕事は世の中にたくさんあります。その中でも私は「英語の先生」という選択肢を選びました。もちろん、教職課程を履修することは大変なことですが、四年間を通して英語学や英米文学だけでなく英語教育についても学んだことで、様々な視点から英語を見つめることができるようになったと感じています。

特に、四年次に行われた教

かに就職活動は長く苦しいものではありましたが、多くの失敗を通して自分を見つめ直し、乗り越えることができたことで、内面的に成長できたのではないかと感じます。また、諦めない気持ちを持ち続けられたのは、家族や友人の応援によるところが大きいと思います。

就職活動は美に多くの時間とお金、労力を要するもので、就職活動を始める前に、アルバイトをして費用を蓄え

就職活動をとおして

四年 本多あゆみ

私が就職活動を意識し始めたのは、三年の夏のインターンシップです。冬休みをあげた頃から会社説明会なども始まり本格的に就職活動を始め、今年四月末にNTTドコモ九州という会社に内定をいただきました。今年、日本全国としては主要企業による新卒採用数が一段と拡大し、学生に有利な売り手市場といわれていますが、九州では、採用人数制限する企業も多く、依然として厳しい状況が続いていると思います。

初めは、社会に出て自分がかかっているという漠然としたまま、面接などでもうまくい

就職活動体験記

四年 寺山翔太

「現役生は不利」という話をよく聞きますが、今年度は英文生の中から数名の一次合格者が出ています。確かに経験という点では講師の先生方より劣るかもしれませんが、しかし「専門力」や「志」の点ではむしろ現役生の方が優れていると思いますし、実際の面接の際にも「これからどんな教師になりたいのか」という将来性を重視されているように感じました。ぜひ自信を持って試験に臨んでください。いよいよ卒業論文の執筆が

新たな決意

編入生として

三年 米良真裕

今年四月、三年次編入として文学部へ入学し、半年が経つに必死となる日々でした。この間は私にとって、毎日が常々自分との葛藤でした。その間に自分と向き合うことができたと思います。

就職活動は単に内定をとるためだけのものではなく、社会に出て自分がどのような人間になりたいかを考えること、新しい環境で仕事をすることへの不安を少しでも軽減させたいと考えています。



▲英文研究室教員、学生一同 6 April 2007

有意義な学生生活を

英文研究室の一年

三年 坂田涼子

昨年十一月、市内ホテルにて英文学会創立50周年記念大会が開催され、私は会場受付のお手伝いをさせていただきました。当日は全国各地から本当にたくさんの方々が集まり、お見えになり、改めて先輩方の受け継いできた五〇年という歴史の重さを感じました。

一昨年、英文分野は英文・独文分野と統合され「欧米言語学」として名称を変え、私たちが現在の三年生がその一期生となりました。名称こそ変わりましたが、英語・英文学に対する志は変わらず、幅広い英語の知識を身につけるべく日々勉強を重ねています。

現在の授業では、まず二年次に主に英語や英文学に関する基礎を

この度、私は株式会社JT九州から内定を頂きました。旅行という形のない商品を提供するにあたり、自分自身の色を最も反映させることができ、また英語学分野で培った語学力を活かすことができると考えたのが主な志望動機です。

十二月には福岡で初めて合同セミナーに参加し、就活生の多さに大変刺激を受けたのを覚えています。二、三月になると企業説明会とエントリースーツ提出のピークとなり、四月からは面接を受けるため何回も県外へ足を延ばしました。一喜一憂を繰り返しながら、五月中旬にJT九州から内定を頂き就職活動を終えさせていただきます。

最後にありますが、しっかりと自分の軸を持つことが、就職活動中は何かと選択の機会に迫られます。私はいつか内定を頂いた中で、最終的に安定よりもやはり甲斐を重視して就職先を決めました。基準は人それぞれであり、自分なりの軸を持つことが就職後の生活でもきっと役に立つと思います。それでは、人生を左右するこの大事な時期に、皆さんが納得のいく就職活動ができることを祈っています。



▲合宿研修 (休暇村南阿蘇) 8 October 2006



▶創立50周年記念大会受付 (アークホール熊本) 11 Nov 2006